

聖書:ホセア書4章1～10節

説教:真実もなく、誠実もなく

はじめに

続けてホセア書を見てまいります。北イスラエルに住んでいたホセアは紀元前760年頃、預言者として召され、姦淫の罪を犯した妻ゴメルのことを通して苦しみながら神の愛を学んでいきます。ゴメルは夫であるホセアを裏切りましたが、北イスラエルはそれと同じように神を裏切ってバアルと呼ばれる神々を愛し、礼拝していました。バアルは畑の豊作や、家内安全、商売繁盛をもたらし、あなたを幸せにしてくれる、すばらしい神なのだというわけですね。しかし、神は警告するのです。もうまもなくアッシリアという外国の軍隊が攻めてくる。そのときバアルはあなた方を救うことができない。あなたがたを外国に連れて行き、家族がばらばらになり、家と畑を失って国が滅んでいく。そんなバアルにしがみついているはいけません。はやく聖書の神に立ち戻りなさい。主はホセアを通して語り続けます。北イスラエルはどこで道を間違えてしまったのでしょうか。このことは、北イスラエルだけではない。今の私たちにもそのままあてはまります。私たちは今どんなところにいるのか。そのような私たちに神は何を語っておられるのか、ともに見てまいります。

1 人の罪

1) 真実も誠実もない

1節。「イスラエルの子らよ、主のことばを聞け。主はこの地に住む者を訴えられる。この地には真実もなく、誠実さもなく、神を知ることもないからだ。」

子育てをしている親は、子どもに対して教えるべきこととしてだれでもこんなことを言うはずですね。「人殺しは絶対にいけない。人を傷つけてもいいけません。人のもの、お店に置いてある物を盗んではいけません。」もしそれでも人を傷つけたり、ものを盗んできたとわかれば、親は子どもを叱って間違いを正そうとするでしょう。殺してはならない、盗んではならないという戒めは、信仰のあるなしにかかわらず、いつの時代でもどこの世界でも変わることがない人間の真理であるとだれもが認めています。「真実と誠実」とはこのことを指します。もしこの真実と誠実がなくなったら大変なことになると、だれでもすぐに想像できる。ところが、主は「この地には真実もなく、誠実さもない」と言われる。その結果どうなったか。ウクライナ戦争で人が殺されています。ガザ地区では飢饉で子どもたちが亡くなっています。詐欺に引っかかって老後の資金を盗られた。そういうニュースを見ない日はない。私のところには、詐欺目的の怪しいメールが毎日来ます。電話も来る。平然とこういうことが行われている。たしかに真実と誠実がないがしろにされています。

2) 神を知ることがない/知識を退けた

なぜこんなことになったのか。指導者が悪いとか政治が悪いと、ほかの人のせいにするのは簡単です。聖書ははっきりと語る。神を知ることがないからだと言う。神の知識を退けた結果、こうなってしまった。北イスラエルのことと言えば、彼らはアブラハムの時代から神を知り、神の知識である聖書のみことばを子どものときから徹底的に教えてきた。ところがバアルの神々が魅力的に見えて心を寄せてしまうと、途端に神の教えを忘れてしまいました。

2 その影響

1) 野の獣も衰え果てる

その結果どうなったでしょう。バアルのおかげで干しぶどうのお菓子は腹一杯食べられるようになり、暮らしは豊かになりました。今のこの時代のことと言えば、物があふれる便利な世の中になりました。しかしそのつけが回って環境破壊が進み、この夏の異常な暑さも地球温暖化によるもので、この暑さが当たり前になっていくだろうと言われています。環境がこれだけ激変したら、人間だけでなく昆虫や動物、川や海の魚にも影響が出ないはずはありません。その様子について聖書はこのように表現します。3節。「それゆえ、この地は喪に服し、そこに住む者はみな、野の獣、空の鳥とともに衰え果て、海の魚さえも一掃される。」

いまは環境問題はだれでも知っている話題ですが、一昔前にはなかったことです。日本の高度成長期に、水俣病とかイタイイタイ病などの公害問題が起きたことがきっかけで、そこからやっと環境に目を留めるようになったと思います。聖書は時代遅れの書物のように言われることもありますが、とうの昔に環境問題について指摘していた。パウロもローマ人への手紙のなかでこう述べています。「被

造物は切実な思いで、神の子どもたちが現れるのを待ち望んでいます。」なぜなら「被造物のすべては、今に至るまで、ともにうめき、ともに産みの苦しみをしています。」（8章19，22節）

2) 神の罰と報復

人の罪は動物たちをも苦しめている。神はどうされるのでしょうか。9節後半。「わたしはその生き方のゆえに彼らを罰し、その行いのゆえに彼らに報復する。」

どうして罰するのか。たとえば、子どもが盗みをしたのに、叱らない親がいたとしましょう。その親は本当に子どもを愛しているのか。愛しているからこそ子どもを叱ります。それと同じです。神は人を愛するがゆえに悪いことをしたら罰して報復をする。

問題は、いったいどのような罰を与えるかです。消極的な面と積極的な面の二つを挙げることができます。

消極的な面。神が積極的に罰を与えなくても、私たちが自ら罪の被害を受けて苦しむ。そういう意味です。戦争が繰り返され、人が殺され、多くの子どもたちが犠牲となっていく。自然環境がバランスを崩して大変なことになっているのも人間の罪が原因です。私たちが蒔いた種を自らが刈り取らなければならない。そうやって苦しんでいる。これが神が積極的にしたのではなく、自分の手で罰を受けている。これが一つ目です。

3 イエス・キリストの苦しみと神の愛

1) 十字架に見る神の罰

二つ目。では神の積極的な罰とは何か。私たちが苦しむようにとアクセルを踏むという意味ではありません。私たちは、すでに自分の蒔いた種を刈り取るという形で苦しみを受けています。このままでいるなら、神の最後のさばきが待っています。

神はそんな私たちを救うために、私たちが受けるべき罰を、代わって神のひとり子であるイエス・キリストが十字架で受けられ、苦しみました。神ご自身が自ら進んで罪の罰を引き受けられたという意味で、積極的な罰と言ってよい。そうすると9節のみことばはどのような意味になるでしょう。「わたしはその生き方のゆえに彼らを罰し、その行いのゆえに彼らに報復する。」歴史的に見れば、北イスラエルがアッシリアによって滅ぼされることによって罰せられたということになります。バアルお拜んで罪から離れなかった結果、自ら

の手でそのような結果を招いたのですから、これは消極的な罰と言ってよい。でも神の罰には二つの種類があると言いました。そうすると9節は、神の積極的な罰のことも指しているとも考えられる。すなわち、やがて来られるイエス・キリストの十字架のことを預言しているとも読めるのです。

2) 十字架に見る神の救い

なぜそう言えるのか。もし神が罪を犯した北イスラエルを滅ぼして終わりなら、なぜホセアを預言者として召し出すのか。姦淫を犯した妻ゴメルを買い取って家に連れ戻し、「私も、あなたにとどまろう」と語らせるのか。滅ぼして終わりだというのであれば、そんなことをわざわざする必要はありません。目的は一つです。神は罪人を救いたいのです。神に背いて真実も誠実もなくして、自分で自分の首を絞めるようにして苦しんでいる私たちを、神は愛し続け、救いたいと願っている。だから語り続ける。滅びのいのちではなく、永遠のいのちを与えたいとひたすら願っています。

その救いはどこまで及ぶのか。ただ人が救われるのでありません。被造物全体、動物も鳥猛も魚も、自然界のあらゆるすべてのものに救いが及んでいきます。

もしみなさんの中で、いま生活が満たされているのならば、それは神のあわれみによるものです。神に感謝しましょう。でも一方には、いま私はあのことこのことで苦しんでいますという方もおられます。そんなとき、「神は私を愛していない。私を見捨てたのだ」と思って悲しくなります。そうではない。神はどんな人であろう愛しています。愛しているかどうかどうやってわかるのか。難しくない。実に簡単な方法です。イエスは言われました。神は敵さえも愛する方であることを述べてから、「父はご自分の太陽を悪人にも善人にも昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからです。」（マタイ5章45節）もしあなたが太陽の光を感じているのなら、あなたは神に愛されています。もし雨に濡れたことがあるというのなら、あなたは神に愛されているとわかる。これならだれも間違いなく判断できます。

でもどうして苦しみは去らないのでしょうか。すべてのことがわかるわけではありません。でも一つだけわかることがある。パウロはこう言いました。「被造物は神の救いを待ち望みながらうめいています。」私たちも心の中うめきながら、主が再び来られるのを待ち望みます。主はそのような方の近くにとどまってください。